

令和3年度事業報告

令和3年4月1日から
令和4年3月31日まで

< 令和3年度を振り返って >

令和元年に中国で発生が確認された新型コロナウイルス感染症は、令和3年度においても、新たに報告されたデルタ株やオミクロン株が多く、多くの国で確認されるなど感染拡大は収束することなく、入国制限が継続されたほか、本県を対象区域に含む緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されるなど、人と人との接触制限や移動制限のある1年であった。

一方で、新しい生活様式に対応した感染予防対策と経済活動の両立に向けて、多くの社会的変化があり、とりわけ、オンラインを活用したコミュニケーションは、コロナ禍において、世界中で急速に普及し、企業等における会議等の開催手段としても日常的に用いられるようになった。

このような背景の中、当財団においては、MICEの推進による地域経済の活性化と、国際交流・国際協力の促進等を目指し、コロナ禍における効果的な事業実施に努めた。

MICEの推進については、MICEの中止や延期は少なくなったものの、オンラインやハイブリッド開催への変更が相次ぐ中で、主催者や参加者の満足度を高め、千葉県での開催を意識していただけるよう、プロモーション映像の提供や、会場での案内ブース設営等を行った。また、千葉市と連携し、ハイブリッド型MICE開催促進補助事業を実施した。

フィルムコミッション運営については、令和3年度の県内撮影件数は98件と昨年実績56件を大幅に上回った。

国際交流・国際協力の促進等については、ボランティアの活動やセミナーを対面からオンラインに変更するなど、新型コロナウイルス感染症の感染防止を図りながら事業を推進した。外国人相談では、特に新型コロナウイルスに関連する、各種給付金、失業、生活困窮、帰国困難等の相談や、ウクライナ難民についての相談が多く寄せられ多言語で対応した。

今後も引き続き新型コロナウイルス感染症やウクライナ難民への対応が見込まれるが、当財団として、1つ1つの事業に迅速かつ柔軟に対応してまいりたい。

I 事業概要

1 MICE事業部門

世界の貿易・投資・人の移動の拡大を背景に経済のグローバル化が飛躍的に進展し、国際競争が激化している中、MICEは、人が集まることによる直接的な経済効果、ビジネス・イノベーション機会の創出、国・都市の競争力向上という観点から、経済発展及び知の集積促進のためのツールとして重要性が高まっている。

また、MICE誘致を巡る国際競争も益々活発化している状況を踏まえ、観光庁では平成30年7月「国際競争力強化委員会提言」で掲出された「2030年MICE関連訪日外国人消費相当額8,000億円」の目標を達成するために、MICEの誘致・開催における都市の国際競争力の向上を図ってきた。

令和2年初めから続く新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴い、多くの参加者が長距離移動を伴って1カ所に集合するMICEは、それ以前の形態での開催が難しくなった。開催規模を縮小し、オンライン形式やオンライン参加を可能とするハイブリッド形式として開催されるMICE案件が増加した。

令和3年度に予定されていたJNTO基準の国際会議71件は、61件が開催されたものの、外国人の入国制限の影響を受け、全ての会議で基準を満たすことが出来なくなった。

このような状況の中、渡航制限解除後に備えて海外とのネットワーク維持・強化を図るため、オンライン商談会等へ積極的に参加したり、県内の大学や研究機関、ランドオペレーター等の国内関係者との関係強化と情報発信の強化に努めた。更に、国内参加者のみのMICEへの取組を強化し、現地参加者の満足度の向上につながる支援を実施した。

千葉県の知名度の向上、フィルムツーリズムの推進等を目的とする千葉県フィルムコミッション運営事業（受託事業）については、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、事業推進に努めたところ、令和3年度の県内撮影件数は98件と昨年実績56件を大幅に上回ることとなった。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて千葉県が実施してきた「スポーツコンシェルジュ運営事業」については、平成27年度の発足当初から当財団が受託しており、事前キャンプや国際大会等の県内誘致に向けた活動に努めてきた。また、事前キャンプに係る新型コロナウイルス感染症への対応に関する情報収集のほか、事前キャンプの誘致に伴い必要となる各国オリンピック委員会や競技団体との契約手続きの助言を行うなど、関係自治体を支援した。

2 国際交流部門

千葉県内に在住する外国人は、外国人技能実習生の拡充や留学生の受入促進等を背景に、年々増加し、令和2年末には16万7千人を超え、人口比は2.7%を超えた。平成31年4月の入管法改正により新たな在留資格「特定技能」が創設され、特定分野で外国人を労働者として受け入れることが可能となり、外国人は地域社会の身近な存在となった。

また、県では、令和2年3月に「千葉県多文化共生推進プラン」を策定して多文化共生事業を計画的に進めていくこととなり、外国人総合相談や地域日本語教育などが当財団の事業として位置付けられた。一方で、新型コロナウイルス感染症の発生により、外国人新規入国者数は大幅に減少した。

このような背景の中、当財団では、民間国際交流・協力団体の活動や国際交流ボランティアなどに関する各種情報収集、情報提供、様々な関係団体との連絡会議を行った。また、外国人相談においては、特に新型コロナウイルス感染症に関連し、各種給付金、失業、生活困窮、帰国困難等の相談が昨年に引き続き多く寄せられ、多言語で対応した。新型コロナウイルスの症状に関する相談については、県と連携し、地域の発熱外来や外国語対応可能な医療機関等を案内した。また、ウクライナ避難民に関連する相談にも対応し、在留資格、住居等を案内した。

県が令和3年3月に「千葉県地域日本語教育推進事業プラン」を策定したことから、県から新たに地域日本語教育推進事業の委託を受け、日本語学習支援者を対象に基礎講座やフォローアップ講座、地域日本語教育関係者ミーティング等をオンラインで開催した。また、在住外国人講師による多文化共生出前講座（小学生版）を実施（一部オンライン開催）したほか、県民等に対する国際理解や国際交流・協力への気運を醸成するため、国際理解セミナーをオンラインで開催した。

また、大規模災害発生時に日本語が十分理解できない外国人を支援するため、千葉県と締結した「災害時多言語支援センター」の設置・運営に関する協定に基づき、10月の台風16号の接近に伴い、同センターを設置し、多言語での情報提供などの支援を実施した。

さらに、会報誌やホームページ、Facebookにて、当財団の活動報告を行うほか、在住外国人向けの各種支援や国際交流・協力に関する様々な情報の提供を実施した。特に、新型コロナウイルス感染症に対する対応について、ホームページやFacebook等を活用し、在住外国人や支援者向けに積極的な情報発信に努めた。

II 実施事業

1 オール千葉によるMICE誘致・開催支援の実施

(1) MICE誘致の新たな展開

新型コロナウイルス感染症は比較的早期に収束するものと想定し、目標数値を設定したが、変異株の出現が続き年度を通して収束することなく、MICE(*1)の開催及び誘致活動にも多大な影響を与えた。政府による感染拡大防止水際対策も継続され、中止や延期は少なくなったものの、オンライン開催やハイブリッド開催への変更が相次いだ。

また、誘致活動においてもその影響は大きく、国内外でのほとんどの商談会等が中止やオンライン開催となり、主催者等との打合せもオンライン会議等の手法を取り入れた活動となった。このような中で、ハイブリッドで開催された学会への支援による主催者との関係強化に努めるとともにハイブリッド型MICE開催促進補助金制度をMICE施設や主催者を対象に実施するなど、千葉県、国際会議観光都市(*2)（千葉市、成田市、木更津市及び浦安市）、各市町村、地元大学、研究機関、関係団体、賛助会員等との連携を強化し、「オール千葉」としてコロナ禍における効果的な誘致・開催支援活動を展開した。

ア MICE関連目標数値

【MICE開催件数】 令和3年1月～12月（暦年）

	JNTO(*3) 基準国際会議(*4) (C)	企業会議 (M) インセンティブ旅行 (I) イベント等 (E)	合計
目標	71件	8件	79件
実績	0件※	0件	0件

令和3年中に開催予定であった71件は、海外からの参加者が得られず、いずれもJNTO基準の国際会議に該当せず、0件となった。なお、基準外の会議は61件開催された。

（リアル開催5件、ハイブリッド開催20件、オンライン開催36件、中止等10件）

イ 開催された主なMICE

区分	名称 () 内は開催方式	開催時期	参加者数		開催場所
			上段	現地	
			下段	オンライン	
C	第62回日本臨床細胞学会総会 春季大会（ハイブリッド）	令和3年6月	1,459		幕張メッセ
			5,866		

C	第 37 回日本 DDS 学会学術集会 (ハイブリッド)	令和 3 年 6 月	260	幕張メッセ
			470	
C	第 39 回内分泌代謝学セミナー (ハイブリッド)	令和 3 年 7 月	50	鴨川グランドホテル
			250	
C	日本機械学会 2021 年度年次大会 (オンライン)	令和 3 年 9 月	—	オンライン
			2,000	
C	第 48 回日本マスキニング学会学術集会 (ハイブリッド)	令和 3 年 9 月	228	京成ホテルミラマーレ
			87	
C	第 25 回日本外科病理学会学術集会	令和 3 年 10 月	150	ペリエホール
			—	
C	第 66 回公益社団法人 日本口腔外科学会 総会・学術大会 (ハイブリッド)	令和 3 年 11 月	516	幕張メッセ
			4,764	
C	第 9 回鉄道技術国際シンポジウム (STECH2021) (ハイブリッド)	令和 3 年 11 月	110	幕張メッセ
			9,713	
C	第 59 回日本人工臓器学会 (ハイブリッド)	令和 3 年 11 月	606	幕張メッセ
			414	
C	大学 ICT 推進協議会 2021 年度年次大会 (ハイブリッド)	令和 3 年 12 月	526	幕張メッセ
			700	
C	第 27 回日本形成外科手術手技学会 (ハイブリッド)	令和 4 年 2 月	150	ホテルサグ・マンハッタン
			491	
C	第 29 回日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医大会 (ハイブリッド)	令和 4 年 2 月	60	幕張メッセ
			585	

ウ 千葉県スポーツコンシェルジュ運営事業 (受託事業)

平成 27 年度以降、千葉県から事業受託しており、ホームページを活用してスポーツ施設・宿泊施設・病院をパッケージとした情報提供を行うとともに、国際競技団体等の依頼に基づく問合せや、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致を希望している自治体との調整を行った。

(7) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック事前キャンプ等の誘致

東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおける事前キャンプの誘致を希望する自治体とともに誘致活動を行った。また、事前キャンプに関する情報収集を行う

ほか、各国オリンピック委員会（NOC）や競技団体（NF）の問合せに対応した。そのほか、NOCやNFとの契約手続に関するアドバイザー制度を活用したオンラインでの研修会を開催し、コロナ禍における事前キャンプ実施に向けた市町村からの相談業務にあたりるとともに、契約に関する調印式のサポートを行った。

(イ) ホームページ等を活用した発信力の向上

東京2020オリンピック・パラリンピックや国際スポーツ大会の事前キャンプ、学生スポーツ合宿などの誘致に資することを目的として、日本語と英語の2か国語のホームページを作成するなど情報発信に努めた。

また、JICA千葉デスクと連携し「ホストタウンでつなぐ写真展リレー」を県内各地で展開した。

(2) MICE誘致競争力の強化

ア コロナ禍の誘致活動

国内・海外で開催される展示会・商談会・セミナーに参加し、MICE開催地としての千葉の魅力や千葉県・千葉市国際会議補助金制度及び当財団の支援プログラムや助成金制度等を紹介する予定であったが、新型コロナウイルス感染症収束の見込みが立たず、そのほとんどが中止やハイブリッド、オンライン開催となった。

このため、AIME 2022やJNTO主催インセンティブ商談会等オンラインで開催された海外展示会・商談会に積極的に参加して情報入手・発信に努めたほか、千葉県・千葉県観光物産協会との共催による国内ランドオペレーター対象のファムトリップを実施して海外からの団体旅行誘致に取り組んだ。

また、大学・研究機関等の主催者にはオンラインでの打合せや感染対策を十分に講じた上で訪問を重ね、誘致活動に努めた。

【誘致決定MICE件数】令和3年4月～令和4年3月（年度） カッコ書き（ ）は昨年度の件数

	JNTO 基準 国際会議	JNTO 基準外 会議（未定含む）	M. I. E	合計
実績	28 (23)件	14 (41)件	0 (4)件	42 (68)件

【誘致決定した主なMICE】

	名 称	開催時期	参加者数	開催場所
C	2022年国際固体素子・材料 コンファレンス (SSDM2022)	令和4年9月	1,000名	幕張メッセ
	<ul style="list-style-type: none"> ・主催：応用物理学会 ・固体エレクトロニクスを進化・発展させ、人々の生活の質の向上に貢献することを目的とした会議で、日本で開催されている中では最も伝統のある国際会議の一つ。 ・主催者が新規開催地を検討しているとの情報を得て、有力な競合がある中、幕張メッセでの開催を県・千葉市の補助金の活用と併せて提案した結果、決定に至った。 			
C	第39回日本DDS学会学術集会	令和5年7月	800名	幕張メッセ
	<ul style="list-style-type: none"> ・主催：日本DDS学会 ・製薬技術の一つで、ナノテクノロジーを駆使し、薬物を体内の目的部位に運ぶことで、治療効果を高めたり、副作用の危険性を減らすことを目的にする学会。 ・幕張メッセで開催された第37回の大会長（東京慈恵会医科大学教授）から会場施設及び当財団の支援に高い評価を得た。その大会長より第39回の大会長（東京理科大学教授）を紹介されたことに加え、幕張メッセの使い易さや料金が、競合の東京の施設よりも高評価を受けて開催が決定された。 			
C	第52回国際騒音制御工学会議	令和5年8月	1,000名	幕張メッセ
	<ul style="list-style-type: none"> ・主催：国際騒音制御工学（I-INCE） ・騒音・振動の制御に関する国際会議で日本での開催は4度目。 ・日本（千葉）での開催立候補に当たり、観光庁長官、JNTO及び知事の招請レターを用意した。また、英文プレゼンテーション資料等を日本側主催者とJNTO、当財団と協力して作成し、開催決定に至った。 			
C	第53回日本皮膚免疫アレルギー 学会総会・学術会議	令和5年11月	1,200名	グランドニッコー 東京ベイ舞浜
	<ul style="list-style-type: none"> ・主催：日本皮膚免疫アレルギー学会 ・皮膚アレルギーをより高い専門性、より高い学術性、より開かれた公益性という伝統を保持し、研究する学会 ・県内開催の令和3年の日本乾癬学会、令和4年の日本小児皮膚科学会学術会議の大会長（順天堂大学医学部教授）が本会議の大会長の予定であり、同教授の強力な推薦があり開催決定となった。 			
C	第42回日本神経治療学会	令和6年11月	1,000名	幕張メッセ
	<ul style="list-style-type: none"> ・主催：日本神経治療学会 ・神経治療学に焦点を絞ったガイドラインの作成、治療・研究活動の支援、神経治療の専門家の意見交換を行う唯一の専門学会。 ・幕張メッセ開催の日本神経免疫学会（令和元年）、日本神経学会（令和5年）の大会長（千葉大学医学部教授）がこの大会の大会長をされる予定で、同教授の強力な推薦があり幕張メッセでの開催が決定した。 			

(ア) 誘致手法の機能強化

a M I C E 案件の分析強化

財団の顧客管理システムに格納された案件について案件カンファレンスを毎月開催し、案件情報を財団内で共有化することによって、案件の分析を多角的に実施した。これにより主催者へのアプローチや関連案件情報の紐付けが出来るようになり、より効果的な誘致活動が出来るようになった。

b 国際会議のローカルホスト支援

県内主催者等が大会を誘致するために必要な支援としてホテル・P C O の紹介、ビットペーパー、プレゼン資料の作成等を実施した。

c M I C E 主催者の視察受入れ

令和3年度中に視察受入れを実施したのは次の通り6案件7回で主催者との信頼関係の構築や施設に関する不安感や疑問点の解決に役立った。

【視察受入れ】

	視察日	案件名	視察施設	視察者
		開催年、決定会場		
1	令和3年4月	第47回日本分子生物学会年会	幕張メッセ	大会長、 学協会3名
		他会場に決定		
2	令和3年7月	Joint Conference of ProMAC and IPMA World Congress 2022	幕張メッセ/ WBG クラブ ラウンジ	事務局3名
		令和4年11月、幕張メッセ		
3	令和3年9月	2023年第39回日本 DDS 学会学 術集会	シェラトン・グ ランデ・トーキ ョーベイ	大会長他2名
		令和5年7月、幕張メッセ		
4	令和3年10月	2023年第63回数学オリンピッ ク日本大会	幕張メッセ/ 東京ベイ 幕張ホール	大会長 学協会11名
		令和5年7月、幕張メッセ		
5	令和3年10月	2023年第63回数学オリンピッ ク日本大会	日航成田	大会長 学協会11名
		令和5年7月、日航成田(宿泊)		
6	令和3年10月	World Clinical Laser Institute Asia Pacific Symposium	シェラトン・グ ランデ・トーキ ョーベイ/	事務局3名

		令和4年10月、ヒルトン東京ベイ	ヒルトン東京 ベイ	
7	令和4年2月	第45回日本分子生物学会年会	幕張メッセ	年会長、 組織委7名
		令和4年11月、幕張メッセ		

d 主催者等企画書やビットペーパー等の提出

国内会議や国際会議の会場選定に当たり、千葉の魅力を伝えるための企画書やビットペーパーを決定権をもつ組織に対して提出した。

e 千葉MICE Dayオンライン講演会

MICE主催者や当財団賛助会員を対象として、MICEを通じたビジネスチャンスの拡大や新たなネットワーク作りに活用していただくことを目的に交流イベントを毎年開催してきた。令和3年度は浦安地域で、新しい生活様式を踏まえたMICEへの取組を紹介する内容での開催準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の観点よりリアル開催の中止を決めた。

これに代えて、令和3年度の千葉MICE Dayは、MICEの再開に向けた取組、デジタルテクノロジーやSDGsの観点から「持続可能なデジタルとMICE」をテーマとしたオンラインによる特別講演会を実施した。

- ・開催日時：令和4年3月28日（月）
- ・開催手法：オンライン
- ・講師：桃井謙祐（観光庁参事官）、落合陽一（筑波大学准教授）、
- ・参加者数：207名（MICE関係者、賛助会員等）

f MEETING PLANNER'S GUIDEの改訂（英語版 PDF）

日本語版のガイドブックの更新に合わせ、英語版「MICE PLANNER'S GUIDE」をPDF版で作成し財団ホームページに掲載した。

g ユニークベニュー情報の更新とホームページへの掲載

ポルシェ・エクスペリエンスセンター東京等の情報を追加するとともにユニークベニューとして利用する場合の情報を追加でホームページに掲載して、主催者の利用促進を図った。

h 千葉伝統芸能プロモーションビデオの作成とホームページへの掲載

千葉県観光物産協会と連携し、県内の代表的な伝統芸能を編集した10分の動画を作成した。また、各団体の情報をとりまとめホームページに掲載し、主催者等へわかりやすく紹介した。

i JNTO 国際会議主催者向け動画制作

JNTO が公募した「国際会議主催者向けバーチャル視察動画制作事業」に千葉市と連携して応募し採択された。本事業は、MICE 開催都市を、海外主催者が実際に視察している構成の動画を制作するものであり、幕張メッセ及び周辺のホテル、千葉市で活用できるユニークベニュー、文化体験などを紹介する内容で、当財団は、企画、各施設・団体との調整、素材提供など撮影に協力した。

イ 海外主催者へのプロモーション

(ア) 国内外展示会・商談会への継続的出展

新型コロナウイルス感染症の影響で海外への渡航が制限される中で、オンラインで開催された展示会や商談会に参加して主催者に、直接、最新情報を提供し、渡航制限解除後に千葉がMICE 目的地として選択されるように千葉の魅力を紹介した。また、現地の生の情報を入手して、今後の対策に役立てると共にコロナ禍で失われた人的ネットワークの再構築を図った。

【参加したオンライン商談会・セミナー】

No	名 称	開催時期	開催方法	内容
1	ICCA 関連セミナー	令和3年度中 5回	オンライン	国際会議に関する最新状況
2	JNTO 在外事務所との個別相談会 (ローマ、シドニー、台北、香港、ハノイ、デリー)	令和3年 6月	オンライン	現地情報・訪日MICEの動向入手
3	Gaining Edge セミナー	令和3年 9月	オンライン	国際会議に関する最新状況
4	第24回 JNTO インバウンド旅行振興 フォーラム	令和3年 9月	オンライン	各市場の最新情報
※ 5	JNTO インセンティブ旅行オンライン商談会 (タイ)	令和3年 11月	オンライン	インセンティブ旅行 商談会
※ 6	JNTO インセンティブ旅行オンライン商談会 (マレーシア・フィリピン)	令和3年 11月	オンライン	インセンティブ旅行 商談会
※ 7	JNTO インセンティブ旅行オンライン商談会 (インドネシア)	令和3年 11月	オンライン	インセンティブ旅行 商談会
8	JNTO インセンティブ旅行オンライン商談会 (シンガポール)	令和3年 12月	オンライン	インセンティブ旅行 商談会
9	JNTO 国際会議オンライン商談会 (シンガポール)	令和3年 12月	オンライン	国際会議に関する 商談会
10	2021 年度マレーシア市場オンライン訪日旅行 セミナー・商談会(クアラルンプール)	令和3年 12月	オンライン	訪日旅行商談会

11	2021 年度マレーシア市場オンライン訪日旅行セミナー・商談会(ペナン、ジョホールバル)	令和4年 1月	オンライン	訪日旅行商談会
12 ※	JNTO インセンティブ 旅行オンライン商談会 (台湾)	令和4年 2月	オンライン	インセンティブ 旅行 商談会
13	2021 年度インドネシア市場オンライン訪日旅行セミナー・商談会(ジャカルタ、スラバヤ、マダン)	令和4年 2月	オンライン	訪日旅行商談会
14	第31回国際 MICE エキスポ (IME2022) (国内、東・東南アジア)	令和4年 2月	オンライン	国内外学会、訪日 インセンティブ等に関 する商談会
15	VJ トラベルマート (アジア、豪州)	令和4年 3月	オンライン	国内外学会、訪日 インセンティブ等に関 する商談会
16	AIME (MICE 展示会) (メルボルン、豪州)	令和4年 3月	現地開催と オンライン	国際会議やインセ ティブ 旅行商談会

※国際会議観光都市の担当職員が参加した商談会

ウ 国際会議観光都市等の市町村との連携強化

新型コロナウイルス感染症の影響で国内外での活動が制限される中、JNTO、国際会議観光都市及び各市の関係者等と連携し、MICE開催へ結び付けるための誘致活動（オンライン商談会、AISOファミトリップ等）やオンライン講演会、JALふるさと応援隊による「客室乗務員のサービスについての講演会」等を行った。

また、平成30年度から開催している国際会議観光都市連絡会議において、事業の進捗状況等の報告を行うとともに、意見交換を行った。

(ア) 国際会議観光都市連絡会議

- ・開催日 : 令和3年12月22日(水)
- ・会場 : 成田市役所
- ・内容 : 令和3年度国際会議観光都市連携事業計画の説明と意見交換

(イ) 商談会への参加

渡航制限解除後に備えて、主催者である海外旅行会社やランドオペレーター、PCO等との商談会に参加した。

一部の商談会（【参加したオンライン商談会・セミナー】で※がついたもの）では、国際会議観光都市の担当者も商談会に参加し情報交換を行った。

(ウ) A I S Oファミトリップ実施

コロナ禍で海外からインセンティブ旅行のキーパーソンが招請できないため、海外の旅行会社から国内の宿泊、輸送、訪問先の手配を任されているランドオペレーターの団体であるA I S O（アジア・インバウンド観光促進協議会）の会員を対象に、県内のファミトリップを、千葉県、千葉県観光物産協会と共催にて実施し、千葉県へのM I C E誘致を働きかけた。

- ・実施日：令和4年2月2日（水）～3日（木）
- ・参加者数：A I S O会員12名

日 程	行 程
1 日 目	東京駅→(新)成田市場→千葉市美術館→P E C 東京※(昼食) →八剱八幡神社→宝家(夕食)→オークラ アカデミアパーク ホテル(泊) ※ポルシェ・エクスペリエンスセンター東京
2 日 目	ホテル→鴨川シーワールド→峠茶屋(昼食)→マザー牧場→東京駅

(エ) 千葉工業大学・惑星探査研究センターオンライン講演会

令和4年5月22日から幕張メッセで開催される「日本地球惑星科学連合2022年大会」の実行委員である千葉工業大学・惑星探査研究センターの和田浩二主席研究員を講師として、主に次代を担う中・高校生を対象に、オンライン講演会「小惑星探査機『はやぶさ2』から見る太陽系の起源と進化」を開催した。地球惑星科学研究と惑星探査への関心を深めてもらい、千葉工業大学・惑星探査研究センターの研究成果を周知することで、千葉県の魅力向上に結び付けていくことを目指した。

- ・開催日時：令和3年12月28日（火）
- ・開催手法：オンライン
- ・主 催：ちば国際コンベンションビューロー
- ・共 催：千葉工業大学・惑星探査研究センター
- ・講 師：和田 浩二（惑星探査研究センター 主席研究員）
- ・参加者数：120名（中・高校生、一般市民等）

(オ) J A Lふるさと応援隊による「客室乗務員のサービスについての講演」

賛助会員企業等のM I C E関係者を対象に、日本航空株式会社の協力を得て、相手の心をつかむ接客マナーの基本など、長年の国際線運航経験で培ったホスピタリティを学び、今後のM I C E推進に向けた質の向上を図った。

また、木更津市の開催では、10月にオープンした「ポルシェ・エクスペリエンスセンター東京」の施設見学を行ったほか、成田市では書道美術館の学芸員による書道パフォーマンスを披露いただき、ユニークベニユー会場とアトラクション

の紹介を行った。

No	開催日	開催都市	開催地	講師	参加者数	備考
1	10/7	千葉市	京成ホテルミラマーレ	大谷 裕子	42 人	千葉テレビ・J:com 放送
2	10/15	浦安市	ホテルオークラ東京ベイ	紫藤 祥子	51 人	浦安市動画を紹介
3	10/21	木更津市	ボルシェ・エクスペリエンスセンター東京	紫藤 祥子	47 人	施設見学会
4	11/5	成田市	成田山書道美術館	前田 成美	39 人	書道体験

(カ) 国際会議観光都市の MICE 誘致・支援 PR 用ロールスクリーンの制作

国内外で開催される展示会、商談会、セミナー等において、CCB ブースに 設置する、国際会議観光都市 4 市 PR 用自立式ロールスクリーンスタンドバナーを制作した。

エ 関係各機関との連携強化

県内の大学、研究機関等の主催者になり得る組織や、当財団の賛助会員をはじめとする企業、団体等との関係を強化し、誘致競争力を高めるための活動を実施した。

(ア) 主催者とのネットワークづくりの強化・拡大

a 千葉大学との関係強化

令和 3 年 10 月 11 日に医学部、10 月 20 日に薬学部、11 月 24 日に看護学部の教授会にて、当財団の学会誘致に関するサービス等について PR、周知した。

b 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構との関係強化

新型コロナウイルス感染症予防のためオンラインでのセミナーを 10 月 13 日に開催し、当財団の学会誘致に関するサービス等を案内した。

c 主催者からの業務受託

第 63 回日本人間ドック学術大会（2022 年 9 月 幕張メッセにて開催）の主催者より、学会プロモーションビデオの制作を受託した。

(イ) 賛助会員とのネットワーク構築と会員へのサービス強化

a ちば MICE ネットワークミーティング

従来「誘致案件検討会」として開催していたが、令和 3 年度から名称を変更して、当財団からの MICE 関連の情報の提供に加えて、賛助会員同士の情報

交換の場とした。本年度は、オンライン又はハイブリッドにより5回開催し、昨年度を上回る参加者が得られ、賛助会員へのサービス向上につなげた。

年度	開催回数	参加団体（累計）	参加者数（累計）
令和3年度	5回	84団体	96名
令和2年度	8回	85団体	89名

b 賛助会員への主催者紹介

会議主催者からの依頼を受けPCOコンペや物産販売などの支援を行うに当たり、当財団の賛助会員と主催者とのマッチングをすることで賛助会員との関係強化につなげた。

(ウ) その他関連団体との関係強化

a かずさアークへのMICE誘致に関わる会議

千葉県商工労働部企業立地課、かずさアカデミアパーク、木更津市、君津市と当財団の担当者にて、かずさアークへのMICE誘致の現状分析や今後の課題について協議した。（令和3年度2回開催、継続予定）

b 当財団職員が講師を務めたセミナーや講義

当財団職員を県内の観光事業者や大学から要請のあったセミナーや講義に積極的に派遣し、県内での当財団の活動を周知した。

No	名 称	開催時期	開催方法	講義内容
1	第1回千葉県国際観光推進協議会主催インバウンドセミナー（南房総市）	2021年 8月	ハイブリッド	インバウンド取組の現状と方針
2	明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部学生への講義	2021年 11-12月	オンライン	地域におけるMICE誘致の意義と取組

c 幕張総合高校との連携

千葉独自のおもてなしとして、幕張総合高校と連携を図り、当財団主催「語学ボランティア講座」では、シンフォニックオーケストラ部の弦楽アンサンブルを、「マクハリエルミ 21/22」では、ダンス部のパフォーマンスの公演を企画し実施した。

(3) MICE開催支援の強化

新型コロナウイルス感染症の影響で会議のオンライン化や、オンライン参加が可能なハイブリッド型が進む中で、主催者及び参加者の満足度を高め、千葉開催を意識してもらえるよう、財政支援や、オンラインによる千葉県や財団プロモーション画像の上映、案内ブースでの観光ガイドマップや千葉県産物品の提供、さらに、地

元アトラクションの紹介や財団のホームページ掲載による広報協力など、主催者のニーズに応えた支援を実施し、主催者との関係を強化した。

ア 補助金、助成金、貸付制度等の効果的な活用

千葉県国際会議開催補助金制度、千葉市国際会議開催補助制度、千葉市大規模コンベンション開催補助制度、千葉市MICE開催補助制度、成田市コンベンション開催事業補助金制度、コンベンション開催助成金及びコンベンション開催準備金の貸付け、さらに千葉市と連携したハイブリッド型 MICE 開催促進補助制度を効果的に活用して、誘致案件の獲得やオンライン会議のハイブリッドへの転換等を進めた。

(ア) コンベンション開催助成金（当財団独自財源による支援制度）

令和3年度開催予定案件10件の交付決定を行ったが、1件が中止、9件がオンライン又はハイブリッド開催となり、入国制限により交付要件（JNTO基準）を満たさなくなったことから、すべての申請者から辞退の届出があった。

(イ) コンベンション開催準備資金の貸付け

下記案件は当初令和3年7月の開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の収束が予想以上に不透明となり、令和4年7月開催予定から更に1年間延期され令和5年8月開催となり、貸付期間も延長した。

会議名称	開催年月	参加者数 (うち海外)	貸付額	返済予定 期日
The 9th International Meeting on Relaxations in Complex Systems (コンプレックスシステムにおける緩和に関する国際会議)	令和5年 8月	900人 (600人)	500万円 ※令和元年 11月貸付	令和5年 11月

(ウ) ハイブリッド型 MICE 開催促進補助制度

千葉市と連携し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と経済活動の両立を図るため、会場での開催とオンライン開催を組み合わせた会議の開催形態であるハイブリッド型MICEの開催を促進することを目的として、MICE関連施設を対象にハイブリッド開催の促進に係る環境整備、及びMICE主催者を対象にハイブリッド型MICEの会場運営費等の一部を補助する制度を実施した。

【施設向け】

- ・補助対象期間：令和3年7月20日～令和3年12月31日まで

- ・補助対象：設備工事費（インターネット専用回線増強、新規回線引込み工事費等）
- ・交付決定額：10,003,000円

No	補助対象 MICE 施設	交付決定額(円)
1	幕張国際研修センター	1,350,000
2	東京ベイ幕張ホール	1,020,000
3	セミナーハウス クロスウェーブ幕張	1,237,000
4	幕張メッセ イベントホール	600,000
5	アパホテル&リゾート東京ベイ幕張	650,000
6	ペリエホール	428,000
7	ホテルニューオータニ幕張	2,000,000
8	ホテル ザ・マンハッタン	2,000,000
9	メイプルイン幕張	718,000
合 計		10,003,000

【主催者向け】

- ・補助対象期間：令和3年7月20日～令和4年2月28日まで
- ・補助対象：会場運営費（会場借上費、会場設営費、機材借上費等）
感染症対策費（衛生用品、消毒作業等）
- ・交付決定額：25,380,000円

No	案件名	MICE 区分	開催期間 (開催日数)	会場	参加者数 上段：現地参加 下段：オンライン参加	交付決定額 (千円)
1	第48回日本マスキリーニング学会学術集会	C	令和3年 9月17日～18日 (2日間)	京成ホテル ミラマレ	228	3,000
					87	
2	JASIS2021、JASIS WebExpo2021-2022	E	令和3年 11月8日～10日 (3日間)	幕張メッセ	8,490	3,000
					9,139	
3	第66回公益社団法人日本 口腔外科学会総会・学術大会	C	令和3年 11月12日～14日 (3日間)	幕張メッセ	516	3,000
					4,764	
4	Inter BEE 2021	E	令和3年 11月17日～19日 (3日間)	幕張メッセ	18,308	3,000
					9,713	
5	第9回鉄道技術シンポジウム	C	令和3年	幕張メッセ	110	2,674

	ム (STECH2021: エステック 2021)		11月23日～25日 (3日間)		110	
6	大学 ICT 推進協議会 2021 年度 年次大会	C	令和3年 12月15日～17日 (3日間)	幕張メッセ	526	3,000
					700	
7	CSL 2021 U-18 Series Final-Rocket League 部門	E	令和4年 2月5日 (1日間)	イオンモール 幕張	74	1,830
					594	
8	第29回日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医大会	C	令和4年 2月12日 (1日間)	幕張メッセ	60	2,640
					585	
9	第27回日本形成外科手技手術学会	C	令和4年 2月19日 (1日間)	ホテルサ・ マンハッタン	150	2,249
					491	
合 計						24,393

イ 千葉ならではの開催支援

(ア) 令和3年度案件に関する開催支援

会議・大会等の開催時に、観光パンフレットの配布や県プロモーション動画の上映を実施することを通じて、MICE 開催地としての千葉を PR するとともに経済波及効果の拡大を図った。併せて、主催者や参加者に直接、県の魅力を PR することで次回以降の会議や関連の会議の誘致につなげるよう努めた。

(実施内容の区分)

- a 事業 会場内に当財団のブースを設置し、観光パンフレットの配布、物産の紹介、当財団の事業の紹介 (当財団職員が常駐)
- b 事業 会場内のテイクフリーコーナーに観光パンフレット等を配置
- c 事業 講演等の幕間での千葉県プロモーション動画、当財団の MICE 誘致動画の上映

No	名称	開催時期 開催会場	参加者 (名)	実施内容
1	第37回日本DDS学会学術集会 (ハイブリッド)	令和3年6月 幕張メッセ	現地 260 オンライン 470	a 事業 c 事業
2	第39回日本内分泌学会 内 分泌代謝学セミナー (ハイブリッド)	令和3年7月 鴨川グランドホテル	現地 50 オンライン 250	c 事業
3	日本機械学会2021年度年次 大会 (オンライン)	令和3年9月 オンライン	オンライン 2,000	賛助会員と連携して 千葉の酒と名産品の 「ちば家飲みセット」開 発・販売

4	第48回日本マスキニング学会 学術集会（ハイブリッド）	令和3年9月 京成ホテルミラマレ	現地 228 オンライン 87	a事業 c事業
5	第9回鉄道技術国際シンポジウム (STECH2021: エステック2021) (ハイブリッド)	令和3年11月 幕張メッセ	現地 110 オンライン 110	b事業
6	大学ICT推進協議会2021年度 年次大会 (ハイブリッド)	令和3年12月 幕張メッセ	現地 526 オンライン 700	b事業 配付コングレスバッグに千 葉市観光案内封入
7	第27回日本形成外科手術手 技学会（ハイブリッド）	令和4年2月 ホテル・マンハッタン	現地 150 オンライン 491	b事業 c事業
8	第29回日本呼吸器内視鏡学 会気管支鏡専門医大会 (ハイブリッド)	令和4年2月 幕張メッセ	現地 60 オンライン 585	a事業

(イ) 令和4年度千葉開催に向けての前年大会でのPR（上段:参加した大会）

No	名 称	開催時期	参加者数 (外国人)	開催地
1	14 th International Conference on Project Management	2021年11月	230名 オンライン 250名	熊本市
	Joint Conference of ProMAC and IPMA World Congress 2022	2022年11月	1,500名 (700名)	幕張メッセ
千葉開催に向けて、会場内に千葉ブースを設けて参加者に直接千葉開催をPR するとともに、オンラインでは幕間に千葉県紹介ビデオを上映し、千葉開催時の 現地参加者増を図った。同時に主催者とより強固な信頼関係を構築した。				
2	第39回日本脳腫瘍学会学術 集会	2021年12月	100名	兵庫県（神戸市）
	第40回日本脳腫瘍学会学術 集会	2022年12月	500名	鴨川グランドホテル、鴨 川シーワールドホテル
千葉開催に向けて、学会関係者とのネットワーキング・情報収集等を行った。ま た、会場の入口に千葉県のPRブースを設置し、参加者に鴨川の紹介を行うとと もに、大会2日目の総会で「鴨川シーワールドのCM動画（30秒）」を上映し、千 葉開催時の現地参加者増を図った。				

(4) MICE適地「千葉」ブランドの確立

千葉のブランドイメージ強化のため、千葉県の有する魅力あるMICE資源の情報収集
に努めるとともに、各種媒体を活用して国内外への情報発信を行った。

ア 県、市町村、J N T O、千葉県観光物産協会等との連携強化による発信

- (ア) 幕張メッセで令和4年3月に開催されたアジア最大級の国際食品・飲料展「FOODEX JAPAN2022」の広報支援を千葉県及び主催者と連携して行い、M I C E 適地千葉の安全・安心に配慮した取組をアピールした。
- (イ) 国際会議 (Inter Noise 2023) の誘致決定や当財団主催のイベント (J A Lふるさと応援隊による「客室乗務員のサービスについての講演」、千葉工業大学・惑星探査研究センターのオンライン講座、千葉 MICE Day 特別講演会) 等のプレスリリースを行い千葉でのM I C E開催の気運醸成を図った。
- (ウ) J N T Oが展開するデジタルマーケティング(*15)講習に参加して他の事業者の事例を学び業務に活かせるよう努めた。(海外向け)
- (エ) 学会・業界専門誌、M I C E 専門誌へ記事を配信し、情報を常にアップデートして千葉ブランドイメージの維持に努めた。
- (オ) 令和3年度に幕張メッセ等でハイブリッド開催された第62回日本臨床細胞学会総会(春季大会)、第23回日本母性看護学会学術大会、第37回日本D D S学会学術集会、第59回日本人工臓器学会等の大会H Pと財団H Pの相互リンクを行い、大会の周知や当財団の知名度アップを図った。

イ WEB・SNS等を活用した情報発信の強化

- (ア) 財団のプロモーションビデオをオンライン会議や千葉 MICE Day 特別講演の待ち時間に上映するなど、積極的に情報発信に努めた
- (イ) 財団ホームページに千葉伝統芸能やユニークメニューの情報を掲載し紹介するとともに、イベントカレンダー掲載 MICE 案件を充実し、MICE 開催地千葉の魅力を伝えた。
- (ウ) 海外向けメールマガジン Chiba Update を定期的に海外のメディアに配信し、一部の内容はMICE Asia (シンガポール) やNippon Taiyo(インド)に掲載されるなど、海外での千葉の認知度を高めた。
- (エ) C C B - I Cニュースとして年4回、当財団の活動報告、最新のM I C E 関連情報、会員活動等の情報を定期的に配信するとともに財団H Pに掲載した。
- (オ) 賛助会員との連携強化として会員紹介ページ及び会員P R動画を適宜更新し、会員ニーズにあった情報を発信した。

(カ) オンライン商談会等で千葉の魅力を視覚的に伝えるための資料を新たに作成し、効果的な情報発信に努めた。

ウ 千葉県フィルムコミッション運営事業（受託事業）

映画やドラマ等を通して、千葉県の知名度、情報発信、文化の向上を図り、観光客の来葉促進等に寄与するよう千葉県が実施するフィルムコミッション運営事業を受託し、千葉県のフィルムコミッションの総合窓口としての役割に加え、「MICEエリア千葉」の情報発信を行うため、次の事業を実施した。

(7) 映像関係者に対するロケーション撮影及びロケ地に関する情報提供、相談業務、その他の撮影支援

a 令和3年度撮影支援実績

カッコ書き()は昨年度の件数

内容	受付件数	撮影依頼件数	
			うち県内撮影件数(*)
件数	3,172件(2,134件)	354件(252件)	98件(56件)

(*)目標件数 48件

b 令和3年度 主な撮影支援作品

媒体	タイトル	撮影地
映画	20歳のソウル	船橋市、習志野市、千葉市
	ぜんぶ、ボクのせい	茂原市、いすみ市、南房総市
	かぐや様は告らせたい2	市川市、千葉市
	TANG	長柄町、千葉市、銚子市、香取市、いすみ市
	KAPPEI	千葉市
	さかなのこ	館山市、南房総市、千葉市、鴨川市
	女子高生に殺されたい	市川市
	大河への道	香取市、千葉市
ドラマ	日本テレビ「コントが始まる」	千葉市
	日本テレビ「ネメシス」	君津市
	TBS「TOKYO MER」	千葉市
	WOWOW「にんげんこわい」	佐倉市

	テレビ東京「病院の治し方 SP」	千葉市
	テレビ東京「うきわ」	君津市
	フジテレビ「志村けんとドリフの大爆笑物語」	四街道市
	読売テレビ「アンラッキーガール」	千葉市、浦安市
	テレビ朝日「和田家の男たち」	南房総市
	テレビ朝日「鹿楓堂よついろ日和」	栄町
	日本テレビ「真犯人フラグ」	柏市、木更津市
	テレビ朝日「愛しい嘘」	千葉市
P V ・ その他	PV「トリガーロック」	市川市
	スチール「ふなっしーカレンダー」	富津市
	PV「愛乙女☆DOLL」	佐倉市
	テレビ東京「乃木坂工事中」	南房総市、館山市

(イ) フィルムツーリズムの推進

a ドラマ「君が落とした青空」タイアッププロモーションの実施

- ・ロケ地マップチラシ作成、HP 特設サイト開設。
- ・京成ローザにて特別試写会実施（メインキャスト、監督が舞台挨拶にて、千葉県撮影時の思い出を語った。
- ・千葉市おゆみ野のロケ地「四季のみち」にてモバイルスタンプラリー実施
- ・成田市公津の杜のロケ地にて、劇中に登場した時計台を AR で出現させて記念撮影できるようにし、ロケ地巡りを推進した。

b 映画「弱虫ペダル」のロケ地を活用したサイクルイベントへの協力実施

「サイクルスタンプラリー さいくるり」木更津市でのロケ情報、画像などを提供した。

c 映画「KAPPEI」/パネル展示会（ケーズハーバー、レストラン「PIER-01」）

(ウ) 市町村での撮影に関する調整、実績調査、その他市町村のフィルムコミッション設立を促進するための会議等の開催

a 令和3年度千葉県内映画・ドラマ等撮影実績調査の実施（年2回）

※対象 県内全市町村

- ・第1回：令和3年4月1日(木)～令和3年9月30日(木)
- ・第2回：令和3年10月1日(金)～令和4年3月31日(木)

b 令和2年度フィルムコミッション市町村担当者会議の実施

- ・開催日：令和3年11月11日(木)
- ・会場：オンライン会議
- ・参加者数：38市町村44名

(I) 千葉県映画・テレビ等撮影支援事業補助金

千葉県の様々な魅力を広く発信し、知名度の向上、県内の経済活性化及び観光客誘致を図ることを目的に、映画等の撮影を行う制作会社等に対して、ロケーション費用を助成する千葉県映画・テレビ等撮影支援事業補助金に係る事務を行った。

(補助対象作品)

- ・映画(3作品) 「ぜんぶ、ボクのせい」「さかなのこ」「残る歳月」

(5) 地域活性化への貢献

ア 県内の活性化

(ア) 幕張新都心の活性化

幕張新都心の活性化につながるイベントである「マクハリイルミ21/22」の幕張新都心イルミネーション実行委員会に参加し、海浜幕張駅前広場(南、北口)での同イベントの支援活動を行った。

<開催期間>：令和3年11月12日(金)～令和4年1月31日(月)(81日間)

また、幕張新都心賑わいづくり研究会や幕張メッセ関連企業懇談会の活動を支援した。

(イ) La Festa Mille Miglia (ラ・フェスタ・ミッレミア) 2021 支援

福島県を出発し海ほたるまで5県を走る国際クラシックカーの祭典。

最終日の県内ルートについて主催者及び成田市、芝山町、一宮町、茂原市、木更津市との調整を実施し、コロナ禍での大会開催に貢献した。

<開催期間>：令和3年9月24日(金)～令和3年9月27日(月)(4日間)

イ 千葉ロッテマリーンズかもめ会事務局

千葉ロッテマリーンズを応援する経済人を会員とする「千葉ロッテマリーンズかもめ会」の事務局として、以下の事業を実施した。

(ア) 応援事業

- ・激励観戦 令和3年5月21日(金) VS 楽天イーグルス 220名
令和3年10月29日(金) VS 北海道日本ハムファイターズ 140名
- ・スプリングキャンプ(石垣島)応援事業
キャンプ地石垣島のホテルに激励品(県産長狭米といも豚)を送付

(イ) 機運醸成事業

- ・海浜幕張地区に応援横断幕を作成、掲示
- ・ホーム開幕戦に合わせ、千葉日報紙に新聞広告掲載
- ・テレビ放映協賛事業
令和3年5月1日～8月31日の期間、15秒のスポット延べ120本を放映(千葉テレビ)
- ・ホーム開幕戦日に花の贈呈

(ウ) その他

- ・かもめ会ホームページを開設
- ・クライマックスシリーズに合わせ、千葉日報紙に広告掲載
- ・千葉テレビの試合放送中にかもめ会CMを放映

2 国際交流・国際協力の促進と多文化共生社会づくり

(1) 多文化共生のためのネットワーク化事業

ア 国際交流ボランティア運営事業

(ア) 国際交流ボランティア制度の運営

例年は、幕張メッセの国際会議やスポーツ大会等において、大勢の語学ボランティアの参加があるが、令和3年度は新型コロナウイルスの影響により、訪日外国人対象の事業等が軒並み中止又は延期となった。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティアの対面による活動、現場への紹介を中止したが、法律相談、学校の保護者面談、児童相談所等、在住外国人支援につながる活動においては、オンラインや電話を活用した遠隔通訳をコーディネートした。

【語学ボランティア】

通訳や翻訳等、語学を通じて国際交流を図るもの

- ・登録者数：1,108名
- ・紹介件数：19件（40人（多文化共生サポート制度該当分を含む））

【ホストファミリーボランティア】

外国人を家庭に招待して国際交流を図るもの

- ・登録者数：336家庭
- ・紹介件数：0件（0家庭）

【文化ボランティア】

趣味、特技、外国生活体験等を生かして国際交流を図るもの

- ・登録者数：240名
- ・紹介件数：0件

【日本語ボランティア】

外国人と日本語によるコミュニケーションを通じ国際交流を図るもの

- ・登録者数：195名
- ・紹介件数：0件（0名）

【事業ボランティア】

イベントの支援や災害時の外国人支援を通じ国際交流を図るもの

- ・登録者数：153名
- ・紹介件数：0件（延べ0名）

(参考) 国際交流ボランティア数の推移

種別	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
語学(人)	1,579	1,764	1,877	1,076 ※	1,108
ホストファミリー (家庭)	335	344	346	336	336
文化(人)	255	259	257	241	240
日本語(人)	126	146	153	160	195
事業(人)	88	96	125	135	153
計(延べ)	2,383	2,609	2,758	1,948	2,032

※令和2年度 語学ボランティアの更新調査を実施。

更新を希望しない、宛先不明、更新票未回答のボランティアの退会処理を行った。

(イ) 多文化共生サポート制度の運営

医療、保健、福祉、教育等の生活支援を要する在住外国人に対し、語学ボランティアを紹介した。コロナ禍において、対面での活動紹介を停止している間は、オンラインや電話を活用した遠隔通訳をコーディネートした。

・紹介件数：16件（うち活動費等の負担件数1件）

イ 多文化共生ボランティア養成研修事業

(7) 地域日本語教育推進事業

a 「総括コーディネーター」の配置

県内の市町村等と連携し、地域日本語教育推進事業を推進する「総括コーディネーター」を設置した。

b 日本語学習支援者基礎講座

在住外国人に対し日本語の学習支援を希望する県民を対象に、必要となる基礎的な知識や素養を養うための講座を実施した。

○「日本語学習支援と文化理解を学ぶ講座 in 八街」

(a) 開催日：令和3年10月30日(土)・11月6日(土)・11月20日(土)・12月4日(土)・12月18日(土)

(b) 会場：Zoomによるオンライン開催

(c) 講師：徳永あかね氏、高橋道恵氏、吉田曜子氏、油川美和氏、吉野文氏

(d) 参加者数：23名

○ 「日本語学習支援と文化理解を学ぶ講座 in 千葉県」

- (a) 開催日：令和4年1月16日（日）・1月22日（土）・1月29日（土）・
2月5日（土）・2月19日（土）
- (b) 会場：Zoomによるオンライン開催
- (c) 講師：徳永あかね氏、高橋道恵氏、吉田曜子氏、油川美和氏、吉野
文氏
- (d) 参加者数：32名

c 日本語学習支援者フォローアップ講座

県内で活動する日本語学習支援者等を対象に、日ごろの活動において更なる資質向上を目指すための実践的な講座を実施した。

○ 「子どもへの支援活動編」

- (a) 開催日：令和4年1月26日（水）
- (b) 会場：Zoomによるオンライン開催
- (c) 講師：鎌形卓史氏（千葉県教育庁教育振興部学習指導課）
「千葉県外国人児童生徒等教育の方針」
海老名みさ子（認定NPO法人外国人の子どものための勉強会理事長）
「地域で支える外国人の子どもたち」
- (d) 参加者数：29名

○ 「生活者（大人）への支援活動編」

- (a) 開催日：令和4年2月2日（水）
- (b) 会場：Zoomによるオンライン開催
- (c) 講師：宿谷和子氏（にほんごの会企業組合理事長）
「相互交流をめざした地域の日本語教室」
- (d) 参加者数：23名

d 地域日本語教育関係者ミーティング

県内において、外国人に対し日本語学習支援を行っているボランティアなどを対象に、活動に役立つ情報の提供や、意見交換等を図るための会議を行った。

○ 第1回

- (a) 開催日：令和3年10月15日（金）
- (b) 会場：Zoomによるオンライン開催
- (c) 講師：伊東祐郎氏（国際教養大学専門職大学院教授）
「千葉県の活力につなげる地域日本語教育」
- (d) 参加者数：56名

○ 第2回

- (a) 開催日：令和4年2月9日（水）
- (b) 会 場：Zoomによるオンライン開催
- (c) 講 師：矢崎理恵氏（社会福祉法人さぽうと21）
「コロナ禍で改めて考える「わたし」にとっての「日本語教室」」
- (d) 参加者数：27名

(イ) 外国人相談基礎研修

外国人相談担当者や日本語ボランティアなどを対象に、外国人が生活する上で必要となる基礎的事項（出入国や行政手続など）等の知識やメンタルヘルスの知識を学ぶ研修を、専門家を招いて実施した。

- (a) 開催日：令和4年3月1日（火）
- (b) 会 場：Zoomによるオンライン開催
- (c) 講 師：「在留管理制度の基礎知識」
建山宣行氏（東京出入国在留管理局在留支援部門）
「外国人のメンタルヘルスについて」
林偉明氏（千葉県精神保健福祉センター）
- (d) 参加者数：103名

(ウ) 語学ボランティア講座（MICE・スポーツ ボランティア編）

MICE関連事業やスポーツ大会等における案内ボランティア等としての活動を見据えた講座を実施した。

①国際会議コース

- (a) 開催日：令和3年10月23日（土）
- (b) 会 場：幕張メッセ・見浜園
- (c) 講 師：村上愛美（財団MICE事業部）
「MICEについて学ぼう」
英語で案内ロールプレイ・見浜園散策
- (d) 参加者数：29名

②スポーツボランティアコース

- (a) 開催日：令和3年11月13日（土）
- (b) 会 場：幕張バイクロスポート
- (c) 講 師：羽賀理之氏（東京2020パラリンピック車いすラグビー日本代表）
「車いすラグビーの魅力」
園部さやか氏ほか（日本財団ボランティアサポートセンター）

「なぜボランティア活動をするのか？」

内山早苗氏（㈱UDジャパン）

「多様なサポート方法を学ぼう」

クリストファー・クレングレン氏（EFエデュケーションファースト）

「English Boot Camp」

(d) 参加者数：25名

ウ 国際理解セミナー事業

(7) 国際理解セミナー

県民、県内の民間交流団体や学生等を対象に、国際理解の促進、グローバル人材の育成、国際交流・協力活動の促進等に役立つ講座を、専門家等を招いて実施した。

(a) 第1回

- ・開催日：令和3年12月10日（金）
- ・会場：Zoomによるオンライン開催
- ・講師：鈴木江理子氏（国士館大学文学部教授）
- ・内容：講演「コロナ禍の外国人住民が抱える問題と支援」
- ・参加者数：125名

※千葉県と共催

(b) 第2回

- ・開催日：令和4年2月20日（日）
- ・会場：Zoomによるオンライン開催
- ・講師：小島祥美氏（東京外国語大学准教授）
- ・内容：講演「外国につながる子どもの教育について知ろう」
- ・参加者数：131名

※JICA 東京 教員のためのSDGs研修と同時開催

(c) 第3回

※千葉県高等学校教育研究会国際教育研究部会と共催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(4) 国際協力パネル展

国際協力や国際理解の意識を高めるため、関係機関と合同でパネル展を実施した。

- ・開催日：令和3年6月29日（火）～7月5日（月）
 - ・会場：そごう千葉店ギャラリー
 - ・内容：国際協力活動等を紹介したパネル展
- *千葉県、JICA 東京、千葉県ユニセフ協会との共催により実施

(ウ) 国際フェスタCHIBA

国際交流・協力、また地域の多文化共生活動について、県民及びボランティア等の理解を促進できるよう、県内の国際交流・協力団体、在住外国人等と連携し、国際フェスタを実施した。

- ・開催日：令和3年6月26日（土）
- ・会場：Zoomによるオンライン開催
- ・内容：JICA海外協力隊現地レポート（ドミニカ、ザンビア）
ちば出前講座（ウクライナ、ネパール、中国）

エ ちば出前講座

(ア) ちば出前講座講師の派遣

県民の国際理解や国際協力への意識啓発等を図るため、在住外国人を講師として団体や学校、公民館などへ派遣し、出身国や開発途上国での体験等を伝える講座を実施した。

- ・件数：13件
- ・派遣講師：41名
- ・講師登録者数：277名

(イ) 多文化共生出前講座（小学生版）の実施

外国人講師による授業やディスカッション型ワーク等を通して、次世代を担う子どもたちの多文化共生意識を養う小学生向けの講座を実施した。本事業は（一財）自治体国際化協会（クレア）の「多文化共生のまちづくり促進事業」の助成金を活用し、令和2年度から2カ年計画で実施した。

外国での学校生活、生活習慣や文化の違い、アニメ、遊び、スポーツなど小学生にも親しみやすいテーマについて外国人講師が講演を行うとともに、講師へのインタビュー等を通じて、多文化共生について理解を深めた。

また、児童用教材・学校関係者用指導ガイドを作成し県内小学校に配布するとともにHPで公開した。

検討委員会：5月25日、8月3日、11月24日

開催日：千葉市立幕張小学校 6月23日、6月30日 4年生 延べ172名

（ベトナム、オーストラリア、ペルー、スウェーデン、ネパール、トルクメニスタン）

柏市立柏第八小学校 9月8日、9月10日 6年生 延べ88名

（ロシア、エジプト、台湾）

千葉市立幕張西小学校 9月16日、9月17日 5年生 延べ158名

（パキスタン、マレーシア、スリランカ、ペルー、中国）

成田市立八生小学校 11月8日 3～4年生 計11名

(コソボ)

参加講師：在住外国人 15名

オ 様々な主体との交流・調整事業

(7) 国際交流・協力等ネットワーク会議

千葉県と共催で、市町村・市町村国際交流協会・民間国際交流・協力団体を対象に、千葉県国際交流センター等による実施事業の周知や、団体活動に関する情報交換、意見交換を図るための会議をオンラインで開催し、団体相互の連携の促進と、地域におけるネットワーク化を推進した。

a 開催日：令和4年1月21日（金）

b 開催方法：Zoomによるオンライン開催

c 内容：

(a) 令和3年度事業について

（千葉県国際課、千葉県国際交流センター、JICA 東京）

(b) ミニセミナー

「外国にルーツを持つ子ども、若者の現状」

講師：上村 寿安 カルロス（チーバくんパートナー）

(c) 分科会

1 班 災害時の外国人支援

2 班 外国人の教育・進学支援

3 班 地域における外国人キーマンの発掘・育成

4 班 SDGs と国際交流・多文化共生

d 参加者数：71名

(4) 外国人相談担当者意見交換会

日ごろ県内の在住外国人からの生活相談等に応じている市町村や市町村国際交流協会等の相談担当者を対象に講義及び意見交換を行った。

・実施日：令和3年12月21日

・会場：Zoomによるオンライン開催

・内容：(a) 講義：「外国籍の中高生向け在留資格」について

「緩和された入国資格（コロナ関連）」について

講師：建山宣行氏（東京出入国在留管理局在留支援部門）

(b) 質疑応答・意見交換

(c) 参加者数：11名

(ウ) 地域日本語教育関係者ミーティング(再掲)

県内において、外国人に対し日本語学習支援を行っているボランティアなどを対象に、活動に役立つ情報の提供や、意見交換等を図るための会議を行った。

(エ) 各種関係機関・団体との連携

a 法人・任意団体の運営への参画

次の法人又は任意団体の構成員（理事、評議員）として、国際交流・国際協力の推進に参画した。

- (a) 公益財団法人千葉市国際交流協会
- (b) 千葉県ユニセフ協会
- (c) 千葉ウイスコンシン協会
- (d) 幕張インターナショナルスクール

b 関係機関との情報交換等

次の会議等において、関係機関と情報交換・意見交換等を行った。

- (a) 千葉県高等学校教育研究会国際教育研究部会総会（資料のみ）
- (b) 多文化共生社会づくり連絡協議会（書面開催）
- (c) 地域国際化協会連絡協議会総会（書面開催）、幹事会、職員国内研修（オンライン開催）
- (d) 関東地域国際化協会連絡協議会情報交換会（オンライン開催）
- (e) 関東弁護士会連合会懇談会（オンライン開催）
- (f) 千葉県弁護士会「外国人関係機関との懇談会」（オンライン開催）
- (g) 令和3年度外国人児童生徒等の受入れに関する運営・連絡協議会
- (h) 千葉市国際交流協会 web サイト刷新業務委託企画提案審査(オンライン開催)
- (i) 千葉県地域日本語教育推進事業調整会議

c インターンシップの受入れ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため受入れ募集中止

d 後援名義による支援

県内の国際交流団体等が実施する7件の国際交流関係事業に対し、後援名義の使用承認を行った。

e イベント等への参加協力

次のイベント等に参加、協力した。

- (a) 第21回日本語弁論大会関東甲信越静地区代表審査（千葉県高等学校教育研究会国際教育研究部会）
 - ① 開催日：令和3年7月
 - ② 開催方法：動画配信による審査

- (b) 令和3年度英語・日本語弁論大会（千葉県高等学校教育研究会国際教育研究部会）
 - ① 開催日：令和4年1月
 - ② 開催方法：動画配信による審査

- (c) 日本貿易振興機構アジア経済研究所開発スクール入学式・修了式
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- (d) 千葉県日中友好協会新年祝賀会
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

- (e) 千葉大学移民難民スタディーズ（移民難民ネットワークちば）
第3回勉強会講師
 - (ア) 開催日：令和4年3月
 - (イ) 開催方法：オンライン開催

カ 国際交流サロンの提供

県民や県内の民間交流団体等に対し、国際交流・協力活動や、研修・交流・国際関連情報提供等の場となる国際交流サロン（当財団研修室や資料コーナー等）を提供して活動を支援した。（研修室利用累計：55回399人）

（6～9月及び1～3月、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、サロンの貸出しを停止）

（2）情報提供事業

ア 会報「国際交流つうしん」の発行等

（ア）会報「国際交流つうしん」の発行

千葉県国際交流センターの事業や、県内の民間交流団体の活動等の紹介し、国際交流、国際協力、多文化共生等に関する意識啓発や活動促進などにつなげた。

また、在住外国人へのインタビューや外国人が集まる施設、レストランの取材

を通し外国人住民への理解を促進するとともに、地域日本語教育推進事業などについて紹介した。

7月（104号）、11月（105号）、3月（106号）。

（各10,000部発行。ホームページにも掲載、対象は県民や県内の民間交流団体、ボランティア等）

(イ) ホームページ、SNSによる情報提供

県民や在住外国人、県内の民間交流団体等への迅速かつ有益な情報源とするため、千葉県国際交流センターのホームページ及びFacebookに、多言語ややさしい日本語で、次のような内容を掲載した。また、TwitterおよびInstagramも開設し、SNSを活用し、災害時等、タイムリーかつ幅広い情報発信に努めた。

（主な内容）

- ・新型コロナウイルスに関連する情報、外国人のための生活情報、相談窓口、国際交流ボランティア制度、県内の民間交流団体や日本語教室、国際協力情報、講座・イベントの情報、会報 など

イ 千葉県外国人学生住居アドバイザー事業

県と共同で、県内に在住を希望する外国人学生の住居確保を支援するため、（一社）千葉県宅地建物取引業協会及び（公社）全日本不動産協会千葉県本部の推薦に基づき44店舗が千葉県住居アドバイザーとして選任され、住宅に関する情報提供や助言を行った。

(3) 在住外国人支援事業

ア 千葉県総合相談事業（受託事業）

在住外国人が安全で快適な生活を送ることができるよう、総合的な相談窓口として千葉県外国人相談を13言語にて実施した。なお、新型コロナウイルスに関連した症状、失業、入管手続きやウクライナ難民等についての相談が多く寄せられ、件数が増加した。

- (ア) 対応言語：日本語・英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・韓国語・ベトナム語・タガログ語・ネパール語・タイ語・インドネシア語・ロシア語・ヒンディー語
- (イ) 相談件数：1,373件
- (ウ) 相談内容（上位5位）
- ①医療 ②出入国 ③法律・諸制度 ④就労 ⑤涉外戸籍

(コロナ関連 265件 症状、生活一般・相談窓口、休業給付、入管等)
 (ウクライナ関連) 43件 在留資格、住居、支援等)

(エ) 相談者国籍 (上位5位)

①日本 (注) ②中国 ③フィリピン ④ペルー ⑤ベトナム

(注) 外国人の代理として、配偶者、知人、通訳等が相談するケース
 外国人への対応に関して日本人が相談するケース 等

(参考) 外国人相談の状況

種別		年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
件数 (件)			828	1,026	1,223	1,639	1,373
相談内容 (上位5位)	1位		出入国	出入国	出入国	就労	医療
	2位		就労	就労	涉外戸籍	医療	出入国
	3位		医療	涉外戸籍	就労	法律・諸制度	法律・諸制度
	4位		涉外戸籍	法律・諸制度	法律・諸制度	出入国	就労
	5位		法律・諸制度	医療	人権・身の上	各種情報案内	涉外戸籍
相談者の国籍 (上位5位)	1位		ペルー	日本	日本	日本	日本
	2位		日本	ペルー	ペルー	ペルー	中国
	3位		中国	フィリピン	中国	中国	フィリピン
	4位		フィリピン	中国	フィリピン	フィリピン	ペルー
	5位		イギリス	アメリカ	アメリカ	アメリカ	ベトナム

イ 在住外国人のための無料法律相談 (受託事業 (一部))

在住外国人が地域社会で日常生活を送る際に抱える法律的な問題の解決を支援するため、千葉県弁護士会・千葉県行政書士会と連携し、一部オンラインや電話の三者通話等の遠隔機能を取り入れ、無料法律相談を実施した。(原則第一月曜日)

(ア) 開催日：令和3年4月5日、5月10日、5月24日、6月7日、7月5日
 8月2日、9月6日、9月25日、10月4日、11月1日、11月20日、
 12月6日、令和4年1月15日、2月7日、3月7日
 奇数月は行政書士を含む

(イ) 会場：当財団研修室等

(ウ) 相談者数：66名

また、初めての試みとして、例年千葉県弁護士会が単独で開催していた「外国人のための法律相談会」を当財団と共催で実施した。

(ア) 開催日：令和3年12月17日

(イ) 会場：当財団研修室等

(ウ) 相談者数：9名

ウ 緊急時支援

千葉県に住み、働き、学ぶ誰もが安心して日々の生活を送れるよう、災害など緊急時の支援のため、次の事業を実施した。

(7) 「千葉県災害時多言語支援センター」の設置・運営

大規模災害が発生した時に、日本語が十分に理解できず様々な困難に直面する外国人を支援するため、多言語での情報提供や避難所へのボランティア派遣等を行う機関を「災害時多言語支援センター」という。

令和2年12月1日に千葉県と締結した「千葉県災害時多言語支援センターの設置・運営に関する協定」に基づき、令和3年10月1日（金）、台風16号の接近に伴い同センターを設置し、多言語での情報提供等を行った。

(4) 災害時外国人サポーター養成講座

市町村職員を対象に、災害発生時の外国人支援に関する講義や「災害時多言語支援センター」の運営などを学ぶことを通じて意識啓発を行うとともに、ネットワークづくりを図るための講座を千葉県と共催でオンライン等により開催した。

① 君津市・木更津市

- ・開催日：令和3年10月30日（土）
- ・会場：Zoom によるオンライン開催
- ・講師：高橋伸行氏ほか（多文化共生マネージャー）
- ・参加者数：30名（ボランティア30名）

② 市町村職員対象

- ・開催日：令和3年11月4日（木）
- ・会場：Zoom によるオンライン開催
- ・講師：高橋伸行氏ほか（多文化共生マネージャー）
- ・参加者数：41名（市町村職員41名）

③ 銚子市

- ・開催日：令和4年1月15日（土）
- ・会場：銚子商工会議所
- ・講師：高橋伸行氏ほか（多文化共生マネージャー）
- ・参加者数：25名（ボランティア20名、外国人5名）

エ 「学校からのおたより」推進事業

日本語を母語としない児童及び保護者に日本の学校教育システムの理解を促すとともに、学校関係者と保護者の相互理解を深めることを目的として、学校システムの概要及び保護者あての連絡文書集を7か国語（言語：英語・中国語・韓国語・スペイン

語・ポルトガル語・タイ語・ベトナム語) に翻訳した「学校からのおたより」をホームページに掲載するとともに、関係機関等と連携し、活用を推進した。

3 庶務事項

(1) 組織

ア 理事会・評議員会・監事

定款に従い、当財団の議決機関として理事会・評議員会を、予算執行等の監査機関として監事を設置している。

令和4年3月31日現在、理事12名・評議員19名・監事3名が就任している。

《理事会・評議員会・監査の開催経過》

＜理事会＞

会 議	開催日・会場	議 題
第1回理事会	令和3年5月26日	1 令和2年度事業報告及び決算(案)について 2 基本財産の指定について 3 名誉会長の委嘱について 4 評議員の選任について 5 役員の選任について(2件) 6 定時評議員会(令和3年度第1回評議員会)の招集について (報告事項) 1 代表理事、業務執行理事の職務の執行の状況の報告
第2回理事会	令和3年6月9日 ※書面評決	1 代表理事の選定について 2 業務執行理事の選任について
第3回理事会	令和3年7月1日 ※書面評決	1 重要な使用人の選定について
第4回理事会	令和3年9月15日 ※書面評決	1 令和3年度第1回補正予算(案)について 4 評議員会(令和3年度第2回評議員会)の招集について
第5回理事会	令和3年3月7日 ※書面評決	1 令和4年度事業計画及び予算(案)について 2 令和3年度第2回補正予算(案)について 3 評議員の選任について 4 役員の選任について 5 令和3年度第3回評議員会の招集について (報告事項) 1 代表理事、業務執行理事の職務の執行の状況の報告

＜評議員会＞

会 議	開催日・会場	議 題
第1回評議員会	令和3年6月9日	1 令和2年度事業報告及び決算(案)について 2 評議員の選任について 3 役員の選任について(2件)

		(報告事項) 1 名誉会長の委嘱について 2 基本財産の指定について
第2回評議員会	令和3年11月5日 ※書面評決	1 令和3年度第1回補正予算(案)について
第3回評議員会	令和4年3月14日 ※書面評決	1 令和4年度事業計画及び予算(案)について 2 令和3年度第2回補正予算(案)について 3 評議員の選任について 4 役員の選任について

<監査>

監査	開催日・会場	議題
令和2年度監査	令和3年5月17日 当財団研修室	業務監査 会計監査

イ 賛助会員組織

(ア) 賛助会員数 (令和4年3月末現在)

正会員 団体 313 個人 2 計 315
国際交流会員 団体 91 個人 563 計 354

<前年度との比較>

	令和3年度 (令和4年3月末現在)	令和2年度 (令和3年3月末現在)	増減 数
正会員	315	314	+1
団体会員 (団体)	313	312	+1
個人会員 (人)	2	2	±0
国際交流	654	733	△79
団体会員 (団体)	91	90	+1
個人会員 (人)	563	643	△80

(イ) 令和3年度新規加入賛助会員

正会員 団体 5 (入会順) 個人 0

1	(株) Connecting food
2	アヅマホールディングス (株)
3	(株) ヒカリシステム
4	ミニトリップ株式会社
5	ポルシェジャパン株式会社

国際交流会員 団体 2、個人 20

(参考) 過去の賛助会員数の推移

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
正会員	358	352	315	314	315
団体会員 (団体)	355	350	313	312	313
個人会員 (人)	3	2	2	2	2
国際交流会員	773	800	823	733	646
団体会員 (団体)	97	95	92	90	91
個人会員 (人)	676	705	731	643	555

ウ 事務局

令和 4 年 3 月 31 日現在の事務局体制は、代表理事以下 31 名（嘱託 9 名含む）である。

(2) 規程の改正

職員の就業規則及び給与規程、会員規程、経理規程等のうち、次のとおり規定改正を行った。

令和 3 年 12 月 1 日改正（施行年月日：令和 3 年 12 月 1 日）

規程等名称	主な改正内容等
職員給与規程	県に準じて期末手当の支給率を改定

※附属明細書について

補足すべき重要な事項はないので、附属明細書は作成していない。

用語解説

(*1) MICE (マイス)

企業等の会議 (Meeting) , 企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive Travel) , 国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention) , イベント、展示会・見本市 (Event/Exhibition) の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

(*2) 国際会議観光都市

国際会議施設、宿泊施設などのハード面やコンベンションビューローなどのソフト面での体制が整備されており、コンベンションの振興に適すると認められる市町村を、市町村からの申請に基づき、観光庁長官が国際会議観光都市として認定する制度。日本全国で 53 箇所あり、千葉県では千葉市・成田市・木更津市・浦安市の 4 市

(*3) JNTO

Japan National Tourism Organization (独立行政法人 国際観光振興機構 (通称日本政府観光局)) の略。

海外における観光宣伝、外国人観光旅客に対する観光案内その他外国人観光旅客の来訪の促進に必要な業務を効率的に行うことにより、国際観光の振興を図ることを目的としている。

(*4) JNTO 基準の国際会議：次の (1)～(4) を全て満たす会議

- (1) 主催者：国際機関・国際団体 (各国支部を含む) 又は国家機関・国内団体 (各々の定義が明確ではないため「特定企業の利益を追求することを目的とした会議」の主催者を除く全てが対象)
- (2) 参加者総数：50 名以上
- (3) 参加国：日本を含み 3 か国以上
- (4) 開催期間：1 日以上

(*5) ICCA

International Congress and Convention Association (国際会議協会 本部アムステルダム) の略。

1963 年に創設された国際会議に係わる業界関係者の知識と人脈を構築し、世界各国で国際会議を開催するための情報交換を目的とする団体。現在、世界 87 カ国の約 900 団体の政府観光局、コンベンションビューロー、会議施設、ホテル、リゾート等の業界関係者が所属している。

(*6) JNTO 国際会議誘致・開催貢献賞

国家戦略として位置付ける国際会議誘致・開催の意義に関する国民の理解を促進し、国際会議主催者及び都市・推進機関の社会的地位を高めるために、2008 年度に日本政府観光局 (JNTO) が創設したもの。

諸外国との誘致競争の結果、わが国への誘致に成功した国際会議に対する国際会議誘致貢献賞と国際会議開催の際に、国際交流プログラムや接遇サービスの提供、国際会議の運営、経費調達等で他の模範となる実績を挙げた国際会議貢献賞の二部門がある。

(*7) ユニークベニュー

博物館や歴史的建造物においてレセプションや会議等を開催し、特別感や地域特性を演出できる会場のこと。